



Title	留学生の事例を通して考える教員の対応のあり方
Author(s)	有川, 友子
Citation	大阪大学ファカルティ・ディベロップメント (FD) フォーラム報告書. 2016, 27, p. 168-174
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/56635
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

研修 E-2

「留学生の事例を通して考える 教員の対応のあり方」

配付資料

平成27年度大阪大学FDフォーラム
研修E「学生指導に悩みを抱える教員のための事例検討会」
平成27年9月7日(月)吹田地区:コンベンションセンター
平成27年9月8日(火)豊中地区:豊中総合学館

「事例を通して考える留学生への対応とサポートについて」

国際教育交流センター
センター長・教授 有川友子

1

本日の内容

- I. 事例の紹介と検討
- II. 大阪大学に学ぶ多様な留学生
- III. 留学生への対応において大事なポイント
- IV. 最後に

I. 事例の紹介と検討

3

II. 大阪大学に学ぶ多様な留学生(1)

1. バックグラウンド

- ・出身国・地域など
- ・言語・文化・社会・経済・宗教など
- ・教育の経験(高校まで、大学学部、大学院)
- ・家族、成育歴
- ・考え方、価値観、行動など

2. 身分、所属課程やプログラム

- ・正規課程(学部、博士前期課程、博士後期課程)
- ・非正規課程(研究生、交換留学生、その他の短期留学生)

II. 大阪大学に学ぶ多様な留学生(2)

3. 留学目的、留学してきた理由

4. 留学中の状況

- ・勉学・研究
- ・経済
- ・住居
- ・家族
- ・友人
- ・その他の人間関係

5. 留学後の目標、計画

- ・進学
- ・就職
- ・帰国
- ・第三国

6. その他

5

III. 留学生への対応において大事なポイント(1)

1. 留学生は同じ阪大生であるが、配慮が必要な場合がある。

- ①家族が日本国内にいない
- ②多様なバックグラウンド

2. 受け入れの段階で見極めることが大事である。

3. 受け入れたら、責任が生じる。

- ③最初が肝心。
- ④早めに留学生の状況を把握。

6

Ⅲ. 留学生への対応において大事なポイント(2)

4. 予防・初期対応が何よりも大事

①指導教員、研究室は留学生の日常の様について一番把握できる立場

②留学生が孤立しないよう配慮

- ・大阪にて留学生が自ら築く友人等、学内外のネットワークの存在が重要
- ・留学生の状況について把握

7

Ⅲ. 留学生への対応において大事なポイント(3)

5. いつもと異なる様子が見られたら:

- ①大事なサイン
- ②見守るか、何らかの対応するか、どうするか判断

6. 対応する教職員が孤立しないこと、チームでの対応が必要

- ①留学生のプライバシーを守りつつ、必要な範囲で関係者間で情報共有し相談する体制を早めに作る。
(専攻、部局、国際教育交流センター等、学内関係部局を活用)
- ②早め早めの対応、迷ったら相談する。
- ③対応が遅れると大変なことになる。

8

Ⅲ. 留学生への対応において大事なポイント(4)

7. 留学生・一般学生を問わず、学生個人に対する指導が大事

- ①教員と学生との間に力関係があることを認識すること
- ②クラスや研究室における教員の言動の影響力について認識すること
- ③研究室の状況について把握すること

- ④留学生、もしくは特定の国や背景を持つ留学生であることを理由とした偏見や差別的言動に気を付けること

9

Ⅲ. 留学生への対応において大事なポイント(5)

8. 学内連携協力体制や組織の確認

- ①部局における連携協力体制
- ②保健センター、キャンパスライフ支援センター等、学内組織
- ③国際教育交流センター(<http://www.ciee.osaka-u.ac.jp/>)

9. 国際教育交流センターによるサポート

- ①日本語教育、日本語の学習に関わること
- ②吹田IRIS(留学生交流情報室)、豊中分室、箕面分室
- ③「大阪大学留学生会(OUISA)」やB.S.P.等、学生主体の交流活動
- ④各国・地域等をベースとした留学生会による活動
- ⑤学外や地域の各種交流活動との連携協力、情報提供
- ⑥留学生へのメールによる定期的な情報提供

「あいりすレター(IRIS Letter)」

iris@ciee.osaka-u.ac.jp にて随時受付(学内教職員も登録可能)

国際教育交流センターHP上にて閲覧可能

10

IV. 最後に

1. 留学生は基本は学生であるが、
 - ・異なるバックグラウンドを持つ。
 - ・家族が日本にいない。
 - ・このため、一般学生とは異なる配慮が必要となることがある。

2. 受け入れた以上は責任がある。
 - ・受入の段階での見極めが大事。
 - ・孤立しないよう配慮やサポート。
 - ・サインをキャッチ。
 - ・チームで対応。